

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鵜飼敦之

「二松から飛翔へ」～一期一会～

限界突破の一日

～輝く笑顔と全力の挑戦～

6月15日（月）、調布市の”京王アリーナ TOKYO”において、全学年が一堂に会した体育大会を開催しました。

当日は梅雨らしい小雨が降り、屋外では肌寒さを感じる天候となりましたが、会場となった室内競技場では、生徒たちの熱気が寒さを吹き飛ばすほどの活気に包まれました。天候に左右されることなく、三学年そろって思い切り競技に取り組めたことは、屋内施設ならではの大きな魅力であり、生徒たちもこのびのびと競技に臨むことができました。

今年のテーマは「限界突破 ～リミットブレイク～」。

各競技はクラス対抗形式で行われ、仲間と声を掛け合いながら勝利を目指す姿が会場のあちらこちらで見られました。順位を競うだけでなく、一人ひとりが全力を尽くし、応援席からはクラス旗を振って応援、アリーナでは円陣を組んで自分たちを鼓舞するなどクラス全体で心をつなげる姿に、体育大会ならではの価値を改めて感じました。

印象的だったのは、学年ごとの特色が自然と表れていたことです。最高学年である3年生は、これまで培ってきた結束力を存分に発揮し、仲間を励まし合いながら競技に挑む姿に頼もしさを感じました。1年生は、初めての体育大会にもかかわらず、何事にも果敢にチャレンジする姿勢が光っていました。そして中堅学年の2年生は、競技でも応援でも落ち着いた安定感を見せ、学年としての成長を感じさせてくれました。

こうした充実した一日を支えてくれたのは、生徒たちの陰の力です。体育委員を中心に、各部活動の係生徒が企画・準備・運営に携わり、大会を円滑に進行してくれました。競技がスムーズに進み、大きなけがや事故もなく無事に終了できたことは、まさに多くの生徒たちの責任感と協力の賜物です。表舞台で活躍した選手だけでなく、見えないところで大会を支えてくれた皆さんに心から感謝したいと思います。

また、当日は400組を超える保護者の皆様にご来場いただきました。保護者席がほぼ埋まり、温かい声援は、生徒たちにとって何よりの励みになったことと思います。学校行事を通して、生徒たちの成長を共に見守っていただけることを大変ありがたく感じています。

「限界突破」という言葉は、体育大会だけのためのスローガンにとどめず、勉強や部活動、学校行事、さらには日々の人間関係においても、自分で決めた限界を少しずつ乗り越え、成長につなげてくれることを期待しています。今週の論語にも自ら限界を作らぬようとの教えが示されています。

【今週の論語】「力足らざる者は、中道にして廃す。今女（なんじ）は画（かき）れり」

生徒たちの輝く笑顔と全力で挑戦する姿から、二松生の持つ大きな可能性を改めて感じた一日となりました。



